

あのまち このまち 地域ワイド

旧制弘高生が 謳歌した青春

弘前

弘大資料館で企画展

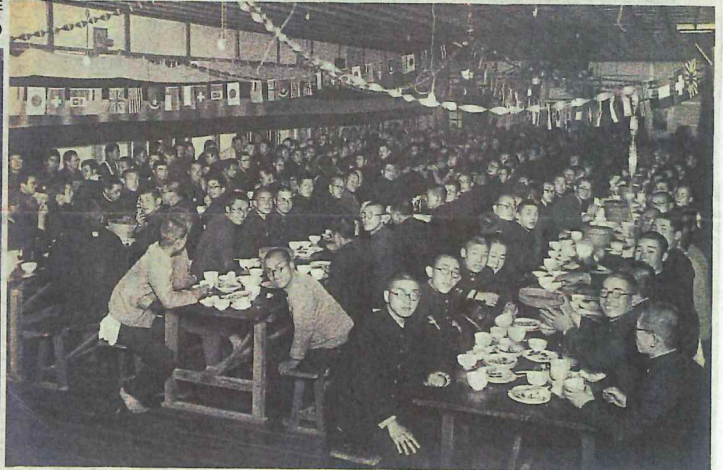
弘前大学資料館で、企画展「旧制弘前高等学校―みちのく弘前で学んだ学生たちの青春―」が開かれている。100年前の大正10(1921)年に開校した同校で、後に日本の発展に寄与することになる多くの若者たちが自由闊達に学び、青春を謳歌する様子が、貴重な写真や資料の数々から見て取れる。8月21日まで。現在は新型コロナウイルス対策のため、県内在住者に限り入館できる。



往時をしのばせる資料の数々が並ぶ会場



第28回修了生が開成中学校から使用していた学生帽



北溟寮の食堂(弘大付属図書館提供)



北溟寮祭(弘大付属図書館提供)

貴重な写真や資料展示

28回生の佐賀郁朗さん(埼玉県所沢市在住)の提案などから実現したもので、同大付属図書館が所蔵するものを中心にパネルや資料約60点を展示。学生帽や足駄、中庭の鉄塔につるされた講義の時間を知らせる時鐘、ノートといった学びが垣間見える資料をはじめ、スキーセットや演劇部の公演パンフレット、北溟寮の開寮記念祭で販売された絵葉書セツ

弘前大学の前身でもある旧制弘高は、東北にあった官立高等学校で、学制改革により30年で閉校したが、太宰治(本名・津島修治)ら4700人余りの卒業生を送り出した。今回の企画展は、第

下など、暮らしぶりを感ぜられる品も並ぶ。当時の写真パネルでは、多くの学生が暮らした北溟寮での生活や、寮内のみならず街

中でも行った「ストーム」と呼ばれる集団での大騒ぎの様子も紹介され、「パンカフ」学生たちの青春時代、その後4時。

貴重な写真や資料展示



1939年10月の第18回北溟寮開寮記念祭で販売された絵葉書セツ



1925(7)27年ごろに撮影された北溟寮の内部(弘大付属図書館提供)。寮と校舎は長い渡り廊下で結ばれ、始業5分前の鐘を聞いて飛び起きても間に合ったという

※この記事は陸奥新報社の提供です。
この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。
[問い合わせ先] 弘前大学資料館
jm3432@hirosaki-u.ac.jp